

「山王中学校生徒指導通信」～「志」が宿り、「いかに生きるか」を考えるために～

『命の山王』

No. 19 [2018年 9月19日(水)]

人はなぜ歌を歌うのか

明日の合唱コンクールへ向けて、先週からの合唱練習期間は、全校が朝から放課後まで、さわやかな歌声に包まれています。校歌や若人山王、そして県民歌という課題曲に取り組むクラスがあるかと思うと、廊下まで使ってパート練習をひたすら繰り返すクラスもあり、それぞれに工夫が見られます。毎年本校の合唱コンクールは大いに盛り上がり、そのレベルも高いものがあると思うのですが、それにしてもなぜこんなに頑張りを見せるのか、そしてなぜこんなに歌うのか、少し考えてみました。

合唱コンクールは全国のどこの中学校でも行われている、ポピュラーなものです。また、合唱に限らず、歌は誰でも好きなはずで、それは聴くことも歌うことも同じだと思います。さらに、歌によっては共感を得たり、心の支えになったりする場合があります。あるいは、たった1曲だとしても、一生の宝物になるものでもあります。知っている歌が共通のものだとすると、一気に打ち解けた関係になることもあります。

歌の素晴らしさの1つに「歌詞の存在」があります。歌詞があるから、歌の世界は広がります。私はずっと楽器をやっているのですが、歌詞がある歌には、とても太刀打ちができません。また、別の魅力として、人間が出している声そのものがあります。人の出す声は自然に聴く人の耳に入ってきます。それが美しいものであればあるほど、ストレートに心に響くこととなります。これも楽器にはかなわない点の1つです。そして、たった一人の声でもそうですから、何人もの声が重なり合った合唱というものの魅力は、その何倍にもなるのは当然です。

それにしても山王中生はなぜあそこまで頑張るのか。教えている私ですら、不思議に思うことがあります。最優秀賞を目指していることもあるでしょうし、あるいはクラスや友人のため、ということもあるでしょう。でも、それだけでは説明がつかないほどの情熱と粘り強さを毎日見せている事実には、驚いてしまいます。単に歌そのものの魅力や賞のためではなく、一人一人の思いを突き抜けるエネルギーが、山王中の合唱コンクールにはあるように思えてなりません。

明日の各クラスの歌声と頑張りを大いに期待したいと思っています。

〔生徒指導主事：木内記〕

「若人山王精神」物語その10

現在、毎週のように各部の新人戦が行われていて、次々と結果が届いています。各種大会で上位に入賞すると、生徒入口の上に名前を掲示することになっています。春からの蓄積があまりにも多くなり、このままでは新人戦の結果を掲示するスペースが確保できません。心配になってきました。まさにうれしい悲鳴です。保護者の皆さんが学校にいらっしゃった時にでも、ぜひご覧いただければ幸いです。

定期演奏会があります！

今週の土曜日に、吹奏楽部の定期演奏会が行われます。会場は文化会館で開演は午後1時半です。今回で48回目となる定期演奏会です。入場は無料で、整理券はありませんが、チケットがなくても入場できます。もし、お時間がありましたらぜひおいでください。